

平成 27 年度 年度計画にかかる事業報告書 大項目評価（案）

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（順調に進んでいる）

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイトを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 市民病院としての役割の発揮	3	6		2	4		
2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献	4	6		2	4		
3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持	3	5			5		
4 市民及び患者とともに築くやさしい病院	2	3			3		
5 地域医療連携の推進	2	3			3		
合 計	14	23		4	19		

評価判断理由

救急医療において、中央市民病院では神戸市全域の基幹病院・救命救急センターとして「断らない救急」を継続し、救急車搬送応需率を高水準で維持するとともに、救急受入体制の充実を図った。西市民病院では毎日 24 時間救急医療の提供を着実に継続し、救急車受入件数・救急車搬送応需率がともに向上した。

高度・専門医療においては、中央市民病院では手術支援ロボット「ダヴィンチ」や「TAVI」（経カテーテル大動脈弁治療）^{※1}等の高度医療機器を使用した手術や検査の実施件数が増加し、西市民病院においても「ダヴィンチ」の導入や内視鏡システムの更新等により安全で負担の少ない手術が行える体制を整備するとともに、「乳腺外科」を新設し、専門医による診療を開始した。

また、平成 27 年 10 月より医療事故調査制度が開始されたことに伴い、両病院ともに院内指針の整備や医療安全管理マニュアルを改訂し、報告システムを整備する等、医療の安全確保に取り組んだ。

患者満足度調査や意見箱等から出た意見・要望への対応を行うとともに、医療通訳制度の継続や患者向け広報紙の発行等、患者サービスの向上に努めたこと、地域医療機関への訪問や交流会の開催により、更なる地域医療連携を図ったこと等から、市民病院としての役割を果たしており、すべての項目で年度計画を着実に実施していると判断した。

その他評価委員からの意見

1 市民病院としての役割の発揮

- ・単純に中央市民病院とは比較できないが、西市民病院についても救急車搬送の受入れ強化について更なる努力をお願いしたい

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

- ・医療資源の適正な配分の観点からも、抗がん剤や肝炎薬をはじめとした高額な薬剤については、症例に合わせた適切な使用を心がけて欲しい

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

- ・電子カルテシステムなど医療情報システムは、カスタマイズ等の観点から、医療機関ごとに整備するのではなく、市民病院機構における全体最適化を図るという視点が今後重要である
- ・インシデント報告を出すことがペナルティと受け取る雰囲気ではなく、むしろ報告件数自体が少ないということが問題であるという土壌が重要である。また、報告されたレポートの中身をきっちり分析し、それを現場に還元することが重要である
- ・両病院とも、病院の規模としては、インシデント報告件数が少なく、医師の報告が占める割合も低い。医療安全への取り組みに対し、積極的な対応を行うことが求められている
- ・アクシデントを未然に防ぐためのインシデントレポートについて、医療安全への寄与という側面からもレポート作成を奨励することは、非常に重要なことである
- ・コンプライアンスの徹底について、意識の徹底以外にも綻びを防ぐような取り組み、仕組みづくりが必要である

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

- ・患者に対するフォローは退院後も必要である
- ・待ち時間を短くするためのFAX予約については、予約後も日時の変更ができるということを連携している医療機関に対して、再度周知する必要がある

5 地域医療連携の推進

- ・神戸市全体の医療提供体制の中で地域包括ケアの観点から、急性期医療の提供ということのみならず、今後のあるべき姿を検討していく必要がある
- ・中央市民病院の紹介率が低いように思う。国立病院機構では143病院の平均が69.3%で、急性期病院ばかりではないにもかかわらずこの数字が出せている。目標が55%に設定されているため、平成27年度の実績57.4%は目標値に達しているが、そもそも目標自体が低過ぎるのではないか。これほど高度な医療を担っている病院であるため、同様の役割を担う同規模の他病院の平均値を調べるとともに、原因の洗い出しをする必要がある。特に、紹介率の低い診療科の原因を明確にし、個別に対策を立てる必要があると考える

※1 TAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation・経カテーテル大動脈弁治療)

心臓弁膜症の患者に対して、胸を開かずカテーテルを使って人工弁を心臓に装着する治療法。高齢で外科的手術が困難な患者等が適応となる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（順調に進んでいる）

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイトを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 優れた専門職の確保と人材育成	3	5			5		
2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり	2	2			2		
合 計	5	7			7		

評価判断理由

看護職員を確保するための取り組みとして神戸市看護大学との連携を強化するとともに、資格取得支援制度や各職種における研修会の継続実施により優れた専門職の確保や人材育成の充実に努めたこと、医師に対する人事評価制度の試行実施の決定や、平成26年度末に実施した職員満足度調査の結果を踏まえた改善項目の検討等、働きやすい環境整備にも努めており、すべての項目で年度計画を着実に実施していると判断した。

その他評価委員からの意見

1 優れた専門職の確保と人材育成

- ・看護師の離職率を引き下げるための取り組みをするにはより根本的な原因追究が必要ではないか
- ・市民病院のような急性期病院で実習している神戸市看護大学からの就職率を向上させてほしい

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

- ・ワーク・ライフ・バランスへの取り組みとして、単なる労働条件だけではなく、働き甲斐という観点を重視すべきであると思う。従業員の満足度が高まれば、ひいては顧客満足度の向上につながる

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

評価結果 A（順調に進んでいる）

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイトを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 安定的な経営基盤の維持	3	6			6		
2 質の高い経営ができる病院づくり	3	4			4		
合 計	6	10			10		

評価判断理由

診療報酬改定や消費税の改正等、平成26年度から引き続き病院を取り巻く環境が厳しい中、各診療科の傾向把握・分析を行い、経営改善に努め、収入の確保や経費削減に向けた取り組みを進めた。適正な病床運営等により収入を確保するとともに、診療材料の価格交渉や薬価交渉の強化及び後発医薬品^{※1}の導入促進等により費用の合理化を図ったが、高度医療の提供による材料費の増加や、医師の異動等による患者数の減少等から、結果として平成27年度においては、経常損益について、地方独立行政法人化後、初めての赤字となった。

今後も経営改善に向けた取り組みを継続して行っていく必要はあるが、経営基盤の基本的な健全性は維持されており、様々な項目における法人一丸となった経営努力については認められることから、すべての項目で年度計画を着実に実施していると判断した。

その他評価委員からの意見

1 安定的な経営基盤の維持

- ・収支の改善には人件費や材料費といったベースとなる費用の削減が必要であり、特に材料は、単価や目的の違いに応じ調達から使用までの一貫した取り組みによるコストマネジメントが必要である
- ・経営改善に関する努力をしていることを評価すべきであると考えられる
- ・医師の期中離職が病院経営に与える影響を緩和させるための取り組みについて、平時から何か考えられないか
- ・経営改善への取り組みで重要なのは、第一線で働いている医師が経営マインドをもつことである
- ・非常に高い入院単価でありながら、結果として、赤字決算となってしまったことについて、点検すべきである
- ・医師が治療に時間をかければかけるほど、それに付随した業務を受け持つ職員の作業時間も必要になる。それもコストとして含めた上で時間当たりの生産性を分析することがこれから大切になってくる

2 質の高い経営ができる病院づくり

- ・経営改善のために期中で、それぞれの診療科の状況を把握し、病院全体でP D C Aサイクルにより対策を検討、実行、検証する必要がある
- ・ダヴィンチやT A V Iなどの高額医療機器の導入等による投資効果をはっきりとさせるべきではないか、金額面だけでなく、トータルとしてのコストパフォーマンスを明確にする必要があるのではないか

※1 後発医薬品

成分そのものや、その製造方法を対象とする特許権が消滅した先発医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許の内容を利用して製造した、同じ主成分を含んだ医薬品のこと。ジェネリックともいう。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

評価結果 A（順調に進んでいる）

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	--------------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A＝小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウエイ トを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進	1	1			1		
2 市関連病院との連携	1	2			2		
3 神戸医療産業都市における役割	1	1			1		
合 計	3	4			4		

評価判断理由

PFI事業^{※1}に関し、業務実施状況の確認や改善によって円滑な運営を図るとともに、PFI導入5年目を迎え、5年間の検証が行えるよう先行事例調査を実施したこと、神戸リハビリテーション病院と重症患者の受入れについて連携強化を行う等、医療機能に応じた市関連病院との連携を推進した。

また、神戸医療産業都市における役割として、引き続き先端医療センター等の近隣の医療機関との連携会議を定期的開催するとともに、メディカルクラスター^{※2}の臨床部門における役割を果たす等、すべての項目で年度計画を着実に実施していると判断した。

その他評価委員からの意見

特になし

※1 PFI事業

平成11年に施行された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）に基づいてなされるもので、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。

※2 メディカルクラスター

神戸市立医療センター中央市民病院を中心に、高度な医療の提供を目指す病院等がひとつの場所に集積・連携することにより、市民への高度な医療サービスの提供、事業者等の新たな事業機会の創出、さらには国際貢献を行うことを目指して設置されたもの。